

## ブログを用いた アーカイブズ分野関連情報の共有

Sharing information on the archival community: a case of the selective dissemination of information using a blog service

坂口 貴弘  
Takahiro Sakaguchi

### 要旨

アーキビストの専門性の確立は重要な課題であるが、その推進のためには、アーカイブズ関連の文献や研究会についての情報の広範な共有化が不可欠である。その一助として、筆者は「ブログ」を用いてアーカイブズ分野関連情報を発信する Web サイト「Daily Searchivist」を開設した。本稿ではまず、アーカイブズ分野関連情報探索ツールの現状を概観する。次に、こういった情報の積極的発信サービスを実現するには、開設や更新が容易であるブログが有効なツールであることを論じる。この考えに立脚して設計したブログの基本方針を述べるとともに、ブログに掲載する情報の収集、分類、提供の手法にも言及する。最後に、アクセス数等の調査にもとづくブログへの評価も紹介しながら、アーカイブズ分野関連情報の共有におけるブログの可能性と今後の課題について考察する。

For our Japanese archival community, the professional development of archivists is one of the most important challenges. To solve the problem, it is indispensable to make information on the archival domain own jointly among the society, such as information on archival literature, news and workshops. The author opened a blog named "Daily Searchivist" <<http://d.hatena.ne.jp/searchivist/>> for the purpose of dissemination of latest archival related information using a blog service. This article reviews some information seeking tools on the archival community. It also proves that the blog is one of the most effective solutions as a service tool for addressing these information, because some function of blogs can make it easier to collect, disseminate and search information than using ordinary Web sites. The author explains the design policy of Daily Searchivist, and refers some methodology of collecting, classifying and presenting the archival related information. The article self-evaluates the blog by analyzing access patterns, and discusses about the potentiality and problems on organization and sharing information for the sake of the archival community.



ており、またインターネットのようなネットワーク情報源を用いた情報共有の手法については、発表された時期のインターネット普及状況を反映してか十分に言及されていない。

さて、本稿において「アーカイブズ分野関連情報」の語は、「資料および施設・機関としてのアーカイブズに関するテーマを扱った情報」という意味で用いる。「アーカイブズ分野」とは「文書館界」とほぼ同義であるが、「文書館」の名をもつ機関には勤務せずともアーカイブズに関心を持つ人々をも含む領域であることを表すため、この語を用いることとした。また、「アーカイブズ分野」はアーカイブズに関する実務の領域と研究の領域との両方を包含するものとする。

「アーカイブズ分野関連情報」の具体的な類型として本稿では、アーカイブズについて言及した図書、雑誌記事、新聞記事、Web情報源等に収録された情報や、アーカイブズについての研究会、イベント、製品・サービス、求人に関する情報を指すものとする。図書や雑誌記事のみを対象とするのであれば「文献」ということも可能だが、後述のような理由から本稿では、研究会や求人に関する情報など、文献以外の情報をも対象とすることに留意されたい。

なお、類似した言葉である「アーカイブズ情報」は、「アーカイブズの内容、出所、管理などに関する情報」「アーカイブズの目録等に記述される情報」といった意味で用いられることが多い。本稿では後者の問題については考察の対象とせず、もっぱら前者について取り扱うものとする。また本稿では、「アーカイブズ」は資料および施設・機関の両方の意味で使うが、施設・機関の意味に限定して用いる場合は「文書館」の語を用いることもある。

## 2. アーカイブズ分野関連情報探索の現状と課題

### 2. 1 情報探索ツールの現状

まず、アーカイブズ分野関連情報の類型として示したような情報を効率的に探すための専門的ツールとして、現段階ではどのようなものが存在するのかについて概観したい。

#### 2. 1. 1 図書

一般に、図書（専門書）には専門的な情報が体系的かつ集約的に収録されており、伝統的な情報メディアとして信頼性も高い。

アーカイブズ分野に関する日本語の図書リストとして有用なのは、『アーカイブズの科学』に掲載されている「アーカイブズ学を学ぶ人のために—主な入門図書—」である<sup>9</sup>。2003年までに発行された図書58件を収録している。新刊図書の紹介記事は、『記録と史料』『レコード・マネジメント』『DJIレポート』といった雑誌に多く掲載され、これらを随時チェックすれば、数年内に発行された図書の概要を知ることができる。

この分野の主要な海外文献を探すためのツールとしては、国際文書館評議会アーカイブズ教育部会が2000年に発表した文献目録「What students in archival science learn」<sup>10</sup>がある。ここには23か国語、2,368件の文献が収録されている。また、各国のアーキビスト協会等も、自ら発行した出版物のカタログをWebサイトに掲載していることが多い。例えば、アメリカ・アーキビスト協会のサイト<sup>11</sup>や国際記録管理者協会のサイト<sup>12</sup>である。それらの団体の会誌・会報には新刊図書の書評を掲載するものもあり、海外で出版されている主要な図書と、それらに対する評価を知ることができる。

#### 2. 1. 2 雑誌記事

アーカイブズ分野の雑誌としては、学協会の機関誌や文書館が発行する紀要などがある。これらはこの分野の最新の研究成果や動向を

掲載しており、専門的かつ速報性の高いメディアであるという特徴をもつ。

日本語の雑誌記事を主に収録した文献目録として、『文書館学文献目録』<sup>13</sup>が編さんされている。1995年以前の雑誌記事等を収録しており、そのCD-ROM版では6,881件の文献が検索できる。また、『記録と史料』の各号には「会員刊行物情報」として、全国歴史資料保存利用機関連絡協議会（以下「全史料協」とする）の機関会員および個人会員の所属する機関等が出版した刊行物（図書を含む）の情報が掲載されており、1995年以降に発行された文書館の紀要や館報等の発行状況を知るには便利である。さらに、『地方史研究』『ネットワーク資料保存』『アート・ドキュメンテーション通信』『アート・ドキュメンテーション研究』の各誌に掲載される文献一覧には、アーカイブズ分野に関する雑誌記事や図書が収録されることも多い。なお、『史学雑誌』の「回顧と展望」では、史料学や史料保存に関する文献が紹介されている。

海外の雑誌に掲載された論文等を収録した文献目録は、上記の「What students in archival science learn」が代表的である。各国のアーキビスト協会等の機関誌については、バックナンバーの目次を会のWebサイトに掲載している例もあるが、更新は頻繁ではないことが多い。アーカイブズ分野に関する論文等も収録される、誰もが無料で使える書誌データベースとしては、The Education Resources Information Center (ERIC)<sup>14</sup>が提供するものがある。

### 2. 1. 3 新聞記事

新聞は高度に専門的な情報より、多くの人々にとって分かりやすく、関心をもちやすいニュースを掲載する傾向が強い。しかしこれらを読むことによって、全国各地のアーカイブズ分野の最新動向を知ることができる。

日本の新聞記事については、全史料協のWebサイトに「Newsスクラップ」のページ<sup>15</sup>があり、アーカイブズ分野に関する1999年の

新聞記事が一覧になっている。海外の新聞記事を探査できるツールは管見の限り存在しない。

### 2. 1. 4 Web情報源

後に述べるように、WWW (World Wide Web) に接続することで、最新の情報をいつでも、どこでも、誰でも無料で入手することができる。ただし、信頼性の低い情報も多いことに注意する必要がある。

Web情報源の探索ツールとしては、関連するWebサイトのURLを示したリンク集が最も一般的である。日本の文書館のWebサイトへのリンク集は、国立公文書館<sup>16</sup>、全史料協<sup>17</sup>、デジタルアーカイブ推進協議会<sup>18</sup>、Yahoo! Japanのディレクトリ「文書館」<sup>19</sup>の各サイトが掲載している（五十音順）。

アーカイブズ分野に関するその他のサイトを紹介したリンク集としては、Archivists in Japan<sup>20</sup>、記録管理学会<sup>21</sup>、(社)日本画像情報マネジメント協会<sup>22</sup>、全史料協関東部会<sup>23</sup>が作成したものが特に優れている（五十音順）。メーリングリストやメールマガジン、掲示板等の電子メディアをまとめて紹介するツールは、管見の限りまだ存在しない。

海外のアーカイブズ分野に関するWeb情報源を紹介するリンク集としては、国連教育科学文化機関（ユネスコ）が開設しているUNESCO Archives Portal<sup>24</sup>が網羅的である。文書館の設置主体ごと、国や地域ごと、情報源の種類や団体、会議ごとなど、様々なカテゴリから世界中のWeb情報源を検索できるようになっている。

### 2. 1. 5 研究会

アーカイブズ分野関連の日本の学協会が開催する研究会等に参加することで、最新の知見を得ることができるとともに、他のアーカイブズ関係者と議論を深めることができる。ただし、このような利益を享受できるのは研究会の参加者のみに限定される。

このような研究会のお知らせは、各団体の

Webサイトに掲載されるが、団体の垣根を越えて研究会の開催情報を随時掲載しているサイトとしてはArchivists in Japanが代表的である。

海外の研究会についても各主催団体がWebサイトに掲示する機会が多い。UNESCO Archives Portalではそれらを横断的に検索することができる。

### 2. 1. 6 製品

アーカイブズ関連業務の支援を目的として、各種の企業が提供する製品やサービスは、実務上の問題解決に役立つ最新の技術を導入していることが多いため、これらの仕様や販売開始に関する最新の情報もまた有益であるといえる。

アーカイブズ業務に関する製品やサービスを提供する企業へのリンク集は、情報保存研究会<sup>25</sup>や(社)日本画像情報マネジメント協会のサイトにある。しかし、製品やサービスそのものについての説明や解説文を検索できるような機能はない。

海外の企業については、例えば国際情報画像管理協会<sup>26</sup>や国際記録管理者協会<sup>27</sup>が自らのサイトにリンク集を掲載している。

【表1】 アーカイブズ分野関連情報の検索しやすさ

	日本		海外	
	最新の情報	過去の情報	最新の情報	過去の情報
図書	△	○	×	○
雑誌記事	△	1995年以前は○	×	○
新聞記事	×	1999年のみ○	×	×
Web情報源	×	○	×	○
研究会情報	○	○	×	×
製品情報	×	×	×	×

※○は検索しやすい、△は関係者にとっては検索しやすい、×は検索しにくいことをそれぞれ示す。

※「Webサイト上の情報源」の最新の情報とは、サイトの開設や更新を知らせる情報を指す。

## 2. 1. 7 まとめ

以上のような現状分析を集約して、アーカイブズ分野関連情報探索ツールの現状をまとめたのが表1である。アーカイブズに関心を持つ日本の一般市民にとって探しやすい情報かどうか、という観点から、国内外、最新の情報と過去の情報ごとに、やや単純化して発表した。

この表によれば、新聞記事や製品情報は特に探しにくいことがわかる。この2種類の情報は、ともに図書館の日常業務に役立つ度合いが高いものであるといえる。また、多くの人にとって最新の情報は国内外を問わず入手したい。

## 2. 2 情報共有化のための課題

このような現状を踏まえて、アーカイブズ分野関連情報の共有化を推進しようとする場合、どのような課題を解決することが必要となってくるのであろうか。ここでは、以下の3点について指摘したい。

### 2. 2. 1 最新情報の迅速な提供

表1にあるように、最新情報の入手は多くの場合には難しい。情報には鮮度がある。過去の情報を遡及的に探索できるシステムの構築はいうまでもなく重要であるが、最新の情報に対するニーズは一般に高いことを考えれば、それに応えることが優先的な課題である。

### 2. 2. 2 開発、運用の際の労力の軽減

前節で探しにくいことが判明した情報をまとめて探索できるツールを開発できれば、冒頭で述べた専門性の向上という課題の解決に役立つ。しかし、その開発および運用にあたっては困難が大きい。特に、最新のアーカイブズ分野関連情報の提供を続けるためには、継続的な情報収集、維持管理が不可欠になる。もともと少ない人員や予算の下で業務に携わる日本のアーカイブズ関係者にとって、そのような負担を抱え込むのは難しいという事情

が、これまで探索ツールが十分に整備されてこなかった要因の一つであろう。こういった事情がすぐに改善されることは見込めないため、労力の軽減は重要な課題である。

### 2. 2. 3 情報の組織化

アーカイブズに関連する内容を扱ったインターネット上の情報源は無数に存在するが、その実態は、高度に専門的な情報から誤解に満ちた文言まで玉石混交である。そのため、利用者の求めに応じたアーカイブズ分野関連情報を的確に提供するためには、情報の広範な収集・選択とともに、分類、見出しの付与、検索手段の整備といった組織化(organization)の作業が不可欠となる。

海野敏は、「情報組織化」を「大量に蓄積された情報・知識、情報源や資料に対し、効率的な探索と利用を可能にするような機能的構造、厳格な体系を与えること」と定義し、その具体的な手法の典型として、分類、配列、目録作成、索引作成、データベース構築を挙げている<sup>28</sup>。図書館や文書館の所蔵資料に対してこの作業を行うことの必要性は従来より自明であるが、多様かつ膨大なデータが飛び交う仮想空間であるインターネットを活用して情報共有を進める際には、組織化はますます重要なプロセスとなってくる。

## 3. ブログを用いたSDIサービス

### 3. 1 SDIサービスとは何か

前章で挙げた必要条件を満たすための手法として、筆者は図書館情報学において「SDI」(選択的情報提供)と呼ばれているサービス形態が有効ではないかと考えた。『図書館情報学用語辞典』では、SDI (Selective Dissemination of Information) について次のような説明がなされている。

要求に応じて、特定主題に関するカレントな情報を検索して、定期的に提供するサービス。選択的情報提供と訳される

ことが多い。個別的なニーズに応じて、あらかじめ用意した特定テーマについての検索式を情報検索システムに登録しておき、定期的に、または、データ更新ごとに検索して、新しい該当情報のレポートを提供する<sup>29</sup>。

日本におけるSDIサービスの代表例としては、独立行政法人科学技術振興機構が有料で提供するものがある<sup>30</sup>。これは科学技術を中心とした特定テーマの文献等について、毎月1回または2回、科学技術情報のデータベースを検索してWebで配信するサービスである。このように、従来は文献リストの回覧やFAX送信などの手段によっていたSDIは、近年インターネットを経由して行われる事例が多くなってきている。

### 3. 2 インターネット利用の有効性

インターネットという情報メディアは、人々の生活やビジネスの中にすでに広く浸透している。何となくネットサーフィンをしている中で興味深いサイトを偶然に見つけた、といった経験はすでに日常的なものとなっており、このメディアを活用することは、これまで社会的に十分認知されていなかった概念を普及させる上で有効な手法の一つである。

従来型メディアの代表としての紙メディアと比較した場合、一般にインターネットには次のような特長があるといえる。

#### 1) 迅速性

最新の情報を、世界中から素早く入手することが可能である。

#### 2) 検索性

電子化された情報は、検索システムを用いることで高速かつダイレクトにキーワード検索できる。

#### 3) 普遍性

インターネットへの接続環境さえあれば、いつでも、世界中どこでも、誰でも、情報を入手することができる。

#### 4) 低価格性

印刷費や郵送費をかけずに、大量の情報を利用者各々の求めに合った形で提供できる。

もちろん、インターネットを利用するにはその弱点や危険性も十分に認識する必要がある。例えば、

- 1) 個人情報や機密情報などが漏洩する危険性が高まる
- 2) 不正確あるいは有害な情報が流通しやすい
- 3) 接続環境やコンピュータ・リテラシーをもたない人々は使うことができない

といった点である。

このような弱点や危険性に留意すれば、前述のような特長をもつインターネットはSDIサービスをはじめとする情報共有ツールとしての大きな可能性を秘めているといえるが、Webサイトの一種であるブログは、通常のWebサイトを利用するよりもさらに情報の収集・提供・検索を容易にするものであり、アーカイブズ分野関連情報の探索ツールの構築を考える場合に有力である。以下、その詳細をみていきたい。

### 3. 3 ブログとは何か

#### 3. 3. 1 定義

「アスキーデジタル用語辞典」では、blogを次のように説明している。

Weblog(ウェブログ)の略で、ブログと読む。日々更新する日記的なページを指す。他者のblogに対するコメントを、自サイトの日記のネタとして利用する際に、先方に記事の引用を知らせるとともに、自分の記載したコメントを先方に自動送信する“トラックバック機能”を持つ場合が多い。この機能を利用すると、どち

らのウェブサイトからでも相互のblogのコメントが参照できるため、単独のblogよりも幅広い意見交換が期待できる<sup>31</sup>。

一つのブログは通常、複数の記事(エントリー)からなる。記事は更新した日付ごとにまとめられるようにできているので、ちょうど日記の形式に類似している。そのため、個人がその日の出来事等を記録するために開設されることが一般的だが、ブログの特性を生かして、報道や専門的なテーマに関する情報・意見の発表の場として用いられる例も多い。「『はてな』利用者に対するウェブ日記・ブログ意識調査」によれば、ウェブ日記・ブログを書く理由として「生活記録」が約半数を占める一方、18.74%の開設者が「情報提供」を挙げていた<sup>32</sup>。

ブログは、イラクの地から戦火に見舞われた街の模様を生々しく伝えたり、米国の大統領選挙に大きな影響を与えたりしたことをきっかけに、一般市民が情報を手軽に発信できるメディアとして急速に注目を集めるようになった。日本では、2003年末に大手インターネット・プロバイダー等が次々と商用ブログサービスを始めたのを契機として、開設件数が急増している<sup>33</sup>。

#### 3. 3. 2 特長

##### 1) 開設がかんたん

ブログを開設する際も更新する際も、通常のWebサイトをつくるのに求められるHTMLの知識やソフトウェアは必要ない。インターネットへの接続環境とテキスト入力機能があれば十分である。商用サービスを利用する場合は、Web上で利用登録を行い、用意されたテンプレートの中からブログのデザインを選択するだけで開設できる。なお、商用サービスの多くは無料で利用できる。

##### 2) 更新がかんたん

商用サービスの場合、用意された専用ページのフォームに文章を入力し、登録

ボタンを押す（エントリーする）だけの操作で更新が行える。ちょうど、電子掲示板に発言を投稿するのと同じ要領である。このため、技術面、手続面で大きな負担をかけずに運用を行うことができる。

3) 過去の記事の管理がかんたん

通常のWebサイトでは、「新着情報」のページから古い情報を削除したり、サイト内のページを整理したりする場合は、開設者がその都度ページを書き換える必要があった。しかしブログでは、新しいブログ記事を追加すると古い記事は自動的に整理され、バックナンバーのページから掲載年月日ごとに閲覧できるようになる<sup>34</sup>。また、記事をカテゴリ分けして整理し、同じカテゴリの記事だけを表示させることも容易であるため、後で述べるような分類語の付与とそれによる記事の検索という機能を持たせるのに適している。

4) トラックバック

「アスキーデジタル用語辞典」の説明にあるように、ブログの大きな特徴はトラックバック機能を有することである。「他人のブログに自分のブログのリンク

を張る機能。（中略）双方向コミュニケーション性を高めるブログの代表的な機能である」と説明されることもある<sup>35</sup>。これにより、ブログの開設者は自らのブログ記事を引用している他のブログを容易に探し出すことができるため、共通の関心を持った人々とのコミュニケーションの輪を広げるきっかけとなる。このような特長は、関連Web情報源としての他のブログの存在を知るのに役立つ。

5) 検索エンジンで上位に来る

Googleなどの検索エンジンで多数の検索結果が表示された場合、最初のほうに登場したWebページのみをいくつか閲覧して用を済ませようとするユーザーは多い。通常のWebサイトと比べて、ブログは検索結果の上位に登場する可能性が高いといわれる。すでに述べたトラックバック機能などが何らかの効果を発揮しているとされている。この特長を生かそうと、企業がマーケティングでブログを活用する例が急増している。つまり、アーカイブズの存在意義や最新動向を広く宣伝するのに役立つ、という付随的な効果をも生み出すことができる。

【表2】ブログとその他の情報メディアとの比較

	ブログとの比較	加入手続	データ更新	データ分類	自動リンク	更新情報発信
紙（例：文献目録）	キーワード検索、更新が困難	不要	刊行後は困難	刊行後は困難	不可能	手間がかかる
通常のWebサイト	更新、分類に手間がかかる	不要	手間がかかる	手間がかかる	困難	可能へ
電子掲示板	分類が困難	不要が多い	容易	困難	不可能	不可能が多い
メーリングリスト	加入手続が必要	必要	容易	不可能	不可能	一部で可能
メールマガジン	購読手続が必要	必要	容易	不可能	不可能	不可能
SNS	加入手続が必要	必要	容易	可能	不可能	可能
ブログ	—	不要	容易	容易	可能	可能

### 3. 3. 3 他の情報メディアとの比較

表2は、ブログとその他の情報メディアとを「加入手続きの容易さ」「データ更新の容易さ」「データ分類の容易さ」「自動リンク機能」といった点から比較したものである。

### 3. 4 まとめ

#### 3. 4. 1 どのような場合にブログは有効なのか

2. 2において指摘した、アーカイブズ分野関連情報共有化における3つの課題を解決しよとする場合においては、ブログは有効なツールである。以下、それぞれの点についてまとめてみたい。

##### 1) 最新情報の迅速な提供

迅速性、検索性、普遍性、低価格性といった特長を有するインターネットを活用することで、SDIサービスをより効率的で効果的に進めることができる。ブログを用いる場合も、これらの特長は有効である。

##### 2) 開発、運用の際の労力の軽減

ブログは通常のWebサイトと比較して、開設や更新を容易に行うことができる。

##### 3) 情報の組織化

ブログは通常のWebサイトと比較して、カテゴリごとの過去の記事の分類を容易に行うことができる。文献データベースのような厳格な情報組織化は難しいが、簡易な分類、検索機能をもたせることが容易にできる。

#### 3. 4. 2 SDIサービスにブログを用いている事例

なお、文書館にとっての類縁機関である図書館に関連する専門的情報を提供するブログはすでに多数存在している<sup>36</sup>。例えば「Liblog JAPAN | Blog on Library and Information Science」<sup>37</sup>は、主に国内外の図書館情報学の文献情報を提供している。「Copy & Copyright Diary」<sup>38</sup>は、著作権や図書館における資料複

写に関する新聞記事をほぼ毎日取り上げている。「ACADEMIC RESOURCE GUIDEの作業メモ」<sup>39</sup>は、インターネット上の学術情報源や研究会等を紹介するとともに、その提供や利用をめぐる諸問題を論じている。

図書館分野におけるこのような動向は、ブログを用いたアーカイブズ分野関連情報のSDIサービスを考えるにあたって大いに参考になった。これら3つの事例と比較すれば、Daily Searchivistは上記のような多様な情報を1つのブログで統合的に提供しようとする点に特徴があるといえる。

## 4. Daily Searchivistの設計

以下の3つの章では、アーカイブズ分野関連情報をめぐる上記のような状況認識にもとづき、2004年7月17日に筆者が開設したブログである「Daily Searchivist」に関して、その設計(Plan)、運用(Do)、評価(See)の3つの側面から順に検討する。

### 4. 1 基本方針

はじめに、ブログ構築にあたってのコンセプトを示すものとして、以下の5つの方針を設定した<sup>40</sup>。

#### 4. 1. 1 文献情報の簡潔かつ迅速な紹介を中心とする

このブログでは、アーカイブズ分野に関する文献情報をコンテンツの中核的存在とした。コンテンツを蓄積していくことで、主要なアーカイブズ関連文献の書誌データベースが構築されることを意図している。ブログ更新の手間を省くため、掲載する情報についての筆者のコメントは最小限度にとどめた。

#### 4. 1. 2 アーカイブズについての基礎知識を有する人を主な読者として想定する

どのような読者層に焦点を当てるかは重要な問題である。このブログを見つけ、訪れる

人々を大別すれば次のようになるだろう。

- 1) アーカイブズについて一定の知識があり、専門的な情報を求めている人
- 2) アーカイブズについては素人で、どのような意味か知りたいと思っている人
- 3) たまたまブログを見つけた人

このブログでは原則的に、1) の人々を主な読者層として設定することとした。具体的には、国文学研究資料館の主催する「アーカイブズ・カレッジ」修了生程度の知識を有する人を想定している。ただし、2) および3) の人々のために、「プロフィール」のページにアーカイブズについての簡潔な説明を掲載した<sup>41</sup>。

#### 4. 1. 3 研究と実務の双方にとって役立つサイトを目指す

アーカイブズについての研究と実務は、相互に補完し合い、密接に交流しながら発展していかなければならず、両者は不可分の関係にある。最先端の研究成果は実務に携わる人々にも十分に提供されるべきであり、実務の情報も研究者にとっては有用なものとなる。そこでこのブログでは、研究か実務かのいずれかに偏しない、バランスの取れた情報提供を目指すこととした。特に、実務に直接役立つ情報として、企業が提供する製品やサービスについての紹介も行うこととした。また、専門性をもったアーキビストの輩出を支援するという当初の目的に鑑みて、アーカイブズ分野に関する就職情報も掲載することとした。

#### 4. 1. 4 拡散しつつあるarchive/s概念の全体に幅広く目を配る

最近、日本でarchiveの語が用いられるのは、次のような意味においてであることが多い。

- 1) NHKアーカイブス：NHKテレビの番組及び施設の名称
- 2) デジタルアーカイブ：文化財などのデ

ジタル化および発信

- 3) 圧縮：コンピュータ用語
- 4) バックナンバー：Webサイトの過去のコンテンツ
- 5) 過去の記録の出版：昔の写真や映像などを集めて本にしたもの

こういった状況と、文書館を中心としたアーカイブズとの関係をどのように考えていくかは大きな課題であるが、このブログでは当面、このような状況をアーカイブズに対する認識の広がりの一態様であると肯定的にとらえ、文書館分野以外のarchive/s概念についてもできるだけ言及することとした。

#### 4. 1. 5 海外の情報にも注目する

海外における先進的な研究や実践が、日本のアーカイブズに関わる人々にとっても役立つ可能性があることはいうまでもない。インターネットによって、海外情報へのアクセスは飛躍的に容易になった。これを積極的に紹介することも、このブログの重要な役割であると考えた。

#### 4. 2 準備

ブログ用のソフトやサービスはさまざまな企業が提供している。筆者は利用するサービスの選定にあたり、アーカイブズ分野関連情報の組織化のためにブログを活用することの意義を考慮し、次の点に留意した。

- 1) 商用サービスを用いること  
 ブログは専用ソフトを使って自分で構築することもできるが、筆者は既存の商用サービスを用いることとした。構築の手間を省くためと、技術的なミスを防ぐためである。
- 2) 使用料が無料であること  
 商用サービスの中でも、使用料の支払いを必要とするものは対象外とした。
- 3) 利用者数が多いこと  
 ブログの無料サービスのうち、利用者

数の多いものを選択するようにした。同一のサービス利用者間では、類似したテーマを扱うブログの発見が容易であることもあり、これがブログを相互に発見する際の大きな要因となるからである。

4) 高度なカスタマイズが可能なこと

既存の商用サービスを利用してはいるが、今後のブログ改善に備えて、利用者個々の目的に応じたカスタマイズが柔軟にできるものを選択した。

以上のような点を考慮した上で、筆者は「はてなダイアリー」<sup>42</sup>を利用することにした。これは1)～4)のいずれの条件も満たしており、特に3)については日本では最大の利用者数を有していた<sup>43</sup>。

#### 4. 3 開設

「はてなダイアリー」を用いて、以下の手順によってDaily Searchivistを開設した。なお、開設の容易さは他の多くの商用サービスでもほぼ同様である。

1) ユーザー登録

無料のユーザー登録を行う。ユーザー名やパスワードを決め、「はてな」の登録用Webページから入力する。

2) デザインを選ぶ

ブログのデザイン(レイアウト)は自作することもできるが、「はてなダイアリー」に用意された多数のテンプレートから選択することもできる。テンプレートのカスタマイズも可能である。

3) ブログの設定の選択

「最新の記事一覧」「最近のトラックバック」「開設者のプロフィール」を表示するか、などを決める。多くの選択肢が用意されており、ブログの目的や好みに応じて自由度の高い設定が可能である。

## 5. Daily Searchivistの運用

上記のような設計プロセスを経て、Daily Searchivistは運用を開始し、これまでのところ毎日、新しい記事を掲載している。この章では、本稿の目的であるアーカイブズ分野関連情報の共有と組織化を、具体的にどのように進めているかについて述べる。すなわち、Daily Searchivistに掲載するアーカイブズ分野関連情報をいかに収集し、分類し、提供しているかを説明したい。

### 5. 1 情報の収集

このブログが提供するような情報の収集は、従前よりもはるかに容易になってきている。これは、インターネットを活用した情報収集ツールの発達によるところが大きい。また、そのようなツールが有用性を増してきたからこそ、このブログのような情報提供サービスが可能になったともいえる。Daily Searchivistに掲載する情報の収集にあたっては、これらの新たなツールも活用している。以下、その一端を紹介する。

#### 5. 1. 1 Webサイト更新情報の取得

各地の文書館や学協会が開設したものなど、アーカイブズ分野に関するWebサイトはすでに多数存在する。これらのサイトから常に最新情報を入手しようとするれば、サイトの更新状況を頻繁にチェックする必要がある。だが、すべてのサイトを定期的に訪れるのはかかる労力が大きい割に効率が悪い。

そこで、利用者が登録したサイトを自動的にチェックし、更新されたサイトの更新された部分の情報だけを随時抽出し、専用のサイトで更新時間順に一覧できるようにするサービスが登場している。「はてなアンテナ」<sup>44</sup>はその代表例であり、200サイトまでなら無料で登録できる。筆者はここに全国の文書館のWebサイト等を登録し、更新部分だけをすぐ閲覧できるようにしている。

### 5. 1. 2 新聞記事

近年、アーカイブズ分野に関するニュースが全国紙や地方紙に数多く掲載されるようになってきている。各新聞社のサイトにはその日の新聞の主な記事や過去の記事が掲載されており、各地の新聞の概要を把握するには便利である。しかし、数多い新聞社のサイトを毎日チェックするのは容易なことではない。

そこで、各社のサイトにある記事を横断的に検索する「Google News」<sup>45</sup>を利用している。これは「610以上のサイトからの最新ニュースを収集・検索」できるサービスである。ここに「公文書」「史料」「文書管理」など、アーカイブズ分野に関するキーワードをいくつか入力し、その検索結果のなかから実際に関連のニュースを掲載しているページを探す。ただし、紙メディアの新聞にしか掲載されない記事や、Google Newsの検索対象になっていないサイトの記事はこの方法では収集できない。また、サイト上のニュースは短期間のうちに消滅する可能性が高いので、注意が必要である。

### 5. 1. 3 新刊図書

新刊図書の刊行情報を把握するには、従来より『これから出る本』<sup>46</sup>や広告を常時チェックするなどの方法がある。アーカイブズ分野に関する図書を効率的に探すために、筆者は「紀伊国屋Bookweb」<sup>47</sup>を用いている。あらかじめ登録したキーワードやジャンルに関する新刊書を一覧できるサービスがあり、便利である。

## 5. 2 情報の選択

上記のような手法で収集した情報は、当初は網羅的に提供していくつもりであったが、実際の運用にあたっては次のような制限を課している。これは、予想以上に多くのアーカイブズ分野関連情報を収集できたので、優先度の低い情報と判断したものは掲載を見送っているためである。

### 5. 2. 1 最新情報

まず、ブログを開設した2004年7月以降の情報のみを掲載しているという点である。これは、この時期以降の情報だけでも毎日1件以上の情報の掲載が可能となったためである。

### 5. 2. 2 対象外の情報

また、以下のような情報は基本的に掲載の対象外とした。

- 1) 史料や文書の発見・紹介、史料集の出版についての新聞記事
- 2) 史料や文書を利用した研究が掲載された文献
- 3) アーカイブズについて考える上での参考にはなるが、アーカイブズと直接の関連はない情報
- 4) 一般の入手が不可能であるか、きわめて困難な情報

## 5. 3 情報の分類

記事の分類は、以下の5種類に大別される分類語を、1つの記事につき必要なだけ付与することで行っている。どの分類語を付与するか判断は、記事の掲載と同時に筆者が行う。

- 1) 発刊の辞  
ベータ版および正式版のブログ開設時のあいさつ。
- 2) メディア  
情報を収録している情報源の種類を示した。ブログに掲載するすべての情報に、1つ以上の分類語を付与している。「イベント」「研究会」「製品」「就職」をメディアに含めるかについては議論があるが、これらはアーカイブズ分野関連情報を入手する際の情報源であるという観点から、Daily Searchivistで取り上げることとした。
- 3) 資料  
特定のアーカイブズ資料について言及している情報の場合に付与する分類である。

## 4) 分野

アーカイブズ管理の一連のプロセスについて言及している情報の場合に付与する分類である。

## 5) 日本

日本に関する情報の場合、アーカイブズの所蔵者または設置主体ごとに付与する分類である。

## 6) 世界

日本以外の国に関する情報の場合、主

として国ごとに付与する分類である。

分類語は必要に応じて増やしていくことができるが、同じような内容の記事には同じ分類語を付与するように留意し、濫造を防ぐようにしている。すなわち一種の「統制語」としての性格を持たせている。ここで用いている分類語とは、図書館の蔵書目録において資料ごとに付与されている「件名」に類似したものであるといえる。

【表3】分類語一覧

	分類語	説明
	発刊の辞	ベータ版および正式版のサイト開設時のあいさつ
メディア	図書	公開を目的として製本されたもののうち、雑誌や新聞に含まれないものについて。出版流通ルートにはのらない報告書などもここに収める。紙と電子の両方の形態で発行される図書については、ここに収める
	雑誌	終刊を予定せずに継続的に刊行されるものについて。新聞およびもっぱら電子的に発行される雑誌は含まない。紙と電子の両方の形態で発行される雑誌については、ここに収める
	報道	新聞記事について。もっぱら電子的に発行される新聞は含まない。紙と電子の両方の形態で発行される新聞については、ここに収める
	Web情報源	WWW (World Wide Web) 上の情報源について
	イベント	文書館等が主催する講座や企画、文書館等以外が主催する行事のうち、研究会に含まれないものについて
	研究会	アーカイブズに関する学習、教育、研修のために開催される行事について
	製品	アーカイブズ関連業務の支援を目的とした製品やサービスについて
	就職	アーカイブズに関する求人について
資料	史料	歴史研究の材料としてのアーカイブズについて
	電子記録	電子メディアの記録およびアーカイブズに関する情報。デジタルアーカイブは含まない

	分類語	説明
	デジタル アーカイブ	
	映像	静止画像、動画像、音声を記録した情報。電子記録およびデジタルアーカイブは含まない
分野	文書管理	現用、半現用文書の管理について。文書管理に関する不祥事は含まない
	不祥事	文書管理に関する不祥事について
	移管	文書館へのアーカイブズの移管および受入について。評価選別は含まない
	評価選別	記録の評価・選別について。移管は含まない
	調査	アーカイブズの調査および移管によらない収集について。オーラル・ヒストリーを含む
	編成記述	アーカイブズの編成および記述について。検索システムや情報提供システムを含む
	保存修復	アーカイブズの物理的な保存処置及び修復について。災害の予防・復旧を含む。施設は含まない
	施設	アーカイブズ施設の管理について
	サービス	アーカイブズの閲覧、レファレンス・サービス、展示などのパブリック・サービスについて。普及は含まない
	普及	アーカイブズの普及について。サービスは含まない
	設立	文書館の設立および設立に向けた動きについて
	制度	
	教育	アーカイブズに関する専門的および入門的な教育について
学協会		
日本	国	
	自治体	
	企業	
	団体	国、自治体、企業、大学、学校以外の団体のアーカイブズについて
	大学	大学・短期大学・研究所などの高等教育機関のアーカイブズについて
	学校	高等学校・中学校・小学校などの初中等教育機関のアーカイブズについて
	地域	特定地域のアーカイブズについて。各種団体は含まない
	人物	一人または複数の人物のアーカイブズについて

	分類語	説明
	図書館	図書館・図書館情報学にも関連する情報
	博物館	博物館・博物館学にも関連する情報
世界	国際	国際関係、国際機関およびイギリス、アメリカ、カナダ、オーストラリア、中国、韓国以外の国について
	イギリス	
	アメリカ	
	カナダ	
	オーストラリア	
	中国	
	韓国	

表3に、これまで付与された分類語とその説明を示した<sup>48</sup>。なお、ここに挙げられた分類語のみによってアーカイブズ分野の体系のすべてを表現しようとするものではない。

#### 5. 4 情報の提供

1本のブログ記事はおおむね、1) 表題(情報の内容)、2) 出典、3) URL、4) 筆者の簡潔なコメント、から構成される。

最新の情報を速やかにかつ大量に提供するため、毎日の更新を目指している。また、1日に掲載する情報は1、2件程度に絞り、更新の負担の軽減を図っている。

また、図書や雑誌記事を紹介する場合、著者、文献のタイトル、出版者、出版年といった書誌事項を記載しているが、その記述は「科学技術情報流通技術基準：参照文献の書き方」(SIST02)<sup>49</sup>に準拠して行っている。これは、学術論文において引用する文献の書き方のいわば「国内標準」ともいべき基準である。やや古いデータだが、日本の科学技術系の学協会誌が定める投稿規程等は71.6%の項目についてSIST02に準拠している<sup>50</sup>。このような標準の活用は、学術情報の円滑な流通に寄与するとともに、Daily Searchivistの記事をもとに探し出した文献を論文等で引用しようとする閲覧者にとっても有益であろう。

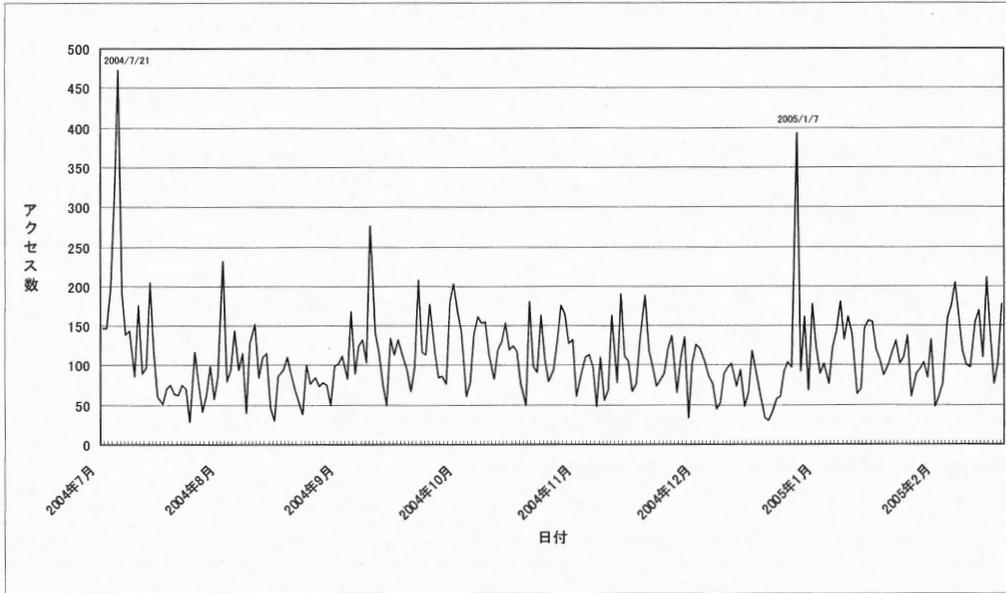
#### 6. Daily Searchivistの評価

Daily Searchivistが所期の目的を達成しているかどうかは、さまざまな観点から検討しなければならない。ここではその一側面として、「情報の収集」「情報の提供」「情報の検索」という3つの観点から、このブログの評価を試みたい。

そこで、Daily Searchivistのアクセス解析の結果をもとに、「アクセス数」「記事の分類」「記事の検索」に関する調査を行った。アクセス数は「情報の提供」について、記事の分類は「情報の収集」について、記事の検索は「情報の検索」についてそれぞれ評価するための調査項目である。調査の対象としたのは、ブログを開設した2004年7月17日から2005年2月28日までの227日間におけるアクセスで、その合計は25,369回であった。

6. 1 アクセス数

【図2】日別アクセス数



6. 1. 1 アクセス数の変遷

Daily Searchivistへのアクセス数を日付順にグラフ化したのが図2である。1日平均112回のアクセスがあり、1週間単位でみれば、開設時より最近時にいたるまでおおむね一定のアクセス数を保っている。最多のアクセスを記録した2004年7月21日（473回）はWeb日

記「shikencho.com 検索の鉄人 関裕司」で、2番目に多かった2005年1月7日（393回）はメールマガジン「ACADEMIC RESOURCE GUIDE」でそれぞれ紹介された日であったことが、アクセス数増加の主な要因と考えられる。

【表4】多くアクセスされている記事

掲載日	記事タイトル	計
2004/ 7/17	正式版スタートに際して	170
2004/ 9/25	市町村合併と公文書 報告書案「政府情報を電子記録によって提供する際の障壁」	93
2005/ 1/ 5	日本のアーカイブズの電子的検索手段のために【1/24】	73
2004/10/16	デジタル・アーキビストの養成 『現代思想』10月号	38
2004/11/14	議会アーカイブズのためのガイドライン	35
2004/ 8/20	政府の公文書——歴史を眠らせるな 全史料協関東部会の9月度月例研究会	32
2004/ 8/ 9	平成16年度 画像保存セミナー	30
2005/ 1/ 6	公文書が語りかけるもの【1/22】	28
2004/ 7/ 3	(ベータ版発刊の辞)	26
2004/8/15	公文書館制度について言及したブログ	22

## 6. 1. 2 アクセス数の多い記事

日付を指定してのアクセスが多かった記事を表4に示した。これらの記事は人気が高か

ったものであるといえるが、国や地方自治体の公文書に関する研究会や新聞報道を紹介した記事が目立つ。

【表5】リンク元となっているWebサイト（アクセス数の多いもの）

Web サイト名	URL	計
ブックマークなど		3,952
Yahoo! JAPAN: 図書館の運営、管理	<a href="http://dir.yahoo.co.jp/Reference/Libraries/Professional_Resources/">http://dir.yahoo.co.jp/Reference/Libraries/Professional_Resources/</a>	387
Archivists in Japan: リンク集	<a href="http://www.archivists.com/links.html">http://www.archivists.com/links.html</a>	316
三河屋のお勝手口	<a href="http://mikawaya.cocolog-nifty.com/okatte/">http://mikawaya.cocolog-nifty.com/okatte/</a>	308
Yahoo! JAPAN: 図書館情報学	<a href="http://dir.yahoo.co.jp/Reference/Libraries/Library_and_Information_Science/">http://dir.yahoo.co.jp/Reference/Libraries/Library_and_Information_Science/</a>	303
shikencho.com 検索の鉄人 関裕司	<a href="http://www.shikencho.com/">http://www.shikencho.com/</a>	283
慶應義塾大学大学院図書館・情報学専攻	<a href="http://www.graduates.slis.keio.ac.jp/index.html">http://www.graduates.slis.keio.ac.jp/index.html</a>	257
Archivists in Japan: リンク集	<a href="http://www.asahi-net.or.jp/~hm7t-kbys/archivists/links.html">http://www.asahi-net.or.jp/~hm7t-kbys/archivists/links.html</a>	114

## 6. 1. 3 リンク元のWebサイト

他のWebサイトからDaily Searchivistへのリンクをたどってアクセスしてきた回数を、リンク元のサイト別に集計したのが表5である<sup>51</sup>。ブラウザの「ブックマークなど」を利用してアクセスしてくる閲覧者は、Daily Searchivistにとってのいわば「固定客」であると考えられるが、これによるアクセスは全

アクセス数の約15%を占めている。「Yahoo! JAPAN」のディレクトリである「図書館の運営、管理」「図書館情報学」からのアクセスが多く、この検索エンジンの日本における普及度を感じさせるとともに、図書館に関する情報を期待してこのブログにアクセスする読者が多いこともうかがえる。「blog版」も含めた「Archivists in Japan」からのリンクも多い。

【表6】記事分類語の付与回数

分類語	数	割合	分類語	数	割合
発刊の辞	2		日本	242	
メディア	344		自治体	62	25.62%
報道	112	32.56%	国	47	19.42%
研究会	78	22.67%	地域	35	14.46%
雑誌	63	18.31%	企業	34	14.05%
Web情報源	56	16.28%	図書館	24	9.92%
製品	16	4.65%	博物館	22	9.09%
図書	7	2.03%	大学	9	3.72%
就職	7	2.03%	団体	5	2.07%
イベント	5	1.45%	人物	3	1.24%
資料	110		学校	1	0.41%
デジタルアーカイブ	39	35.45%	世界	104	
電子記録	38	34.55%	国際	44	42.31%
史料	18	16.36%	アメリカ	25	24.04%
映像	15	13.64%	イギリス	13	12.50%
分野	265		韓国	9	8.65%
文書管理	67	25.28%	中国	6	5.77%
保存修復	48	18.11%	オーストラリア	5	4.81%
制度	44	16.60%	カナダ	2	1.92%
設立	19	7.17%			
普及	16	6.04%			
不祥事	14	5.28%			
編成記述	12	4.53%			
評価選別	11	4.15%			
教育	10	3.77%			
調査	7	2.64%			
サービス	7	2.64%			
移管	6	2.26%			
学協会	3	1.13%			
施設	1	0.38%			

## 6.2 記事の分類

分類語がそれぞれ何回付与されてきたかをまとめたのが表6である。

メディアでは「報道」が最も多く付与され、全体の3分の1を占める。新聞記事の入手のしやすさがその要因であるが、ブログの趣旨から考えれば、雑誌および図書に関する情報

の増加が望まれる。

資料では「デジタルアーカイブ」と「電子記録」がほぼ同じ付与回数である。筆者としてはとりわけデジタルアーカイブを重視しているつもりはないが、この語に関する情報の多さを反映したものであろう。

分野では「文書管理」が全体の4分の1と

なっている。「不祥事」も文書管理に関するものであることを考えれば、この領域についてはより細かな分類が必要である。「保存修復」が第2位になった要因としては、2004年の後半に台風や地震などの自然災害が多く発生したことが大きい。

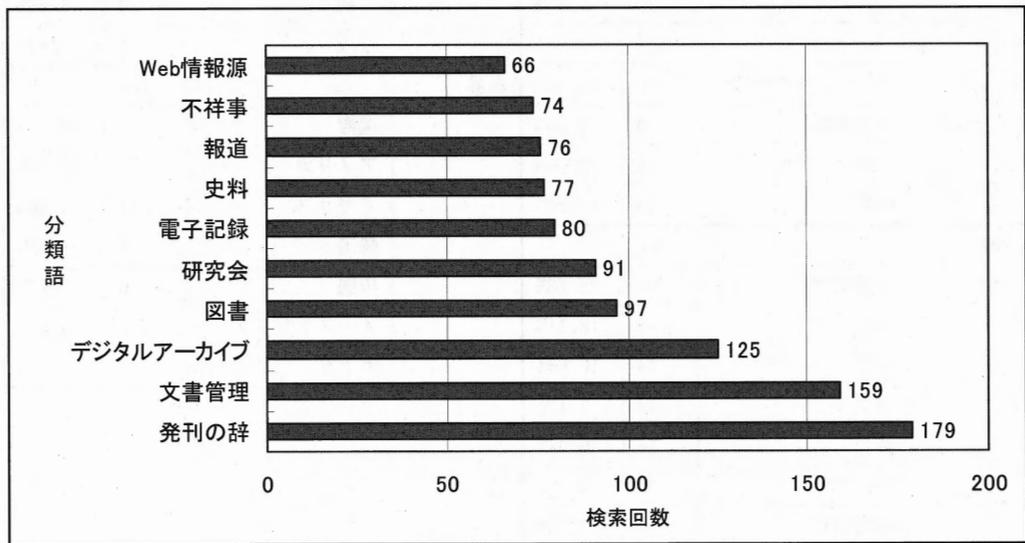
日本では「自治体」が最も多く付与されている。自治体立の文書館が主流である状況を反映したものであろう。

世界では「国際」が約4割を占めた。ここ

には分類語に挙げている国以外の国々に関する情報も含まれるため、厳密な意味で「国際」的な情報のみに付与しているものではない。他の国々に関する情報は、「国際」から切り離すことが適切である。

一方で、「施設」「学校」「カナダ」の付与回数は少ない。これらを分類語として採用し続けることが適切かどうかについて、再考の余地がある。

【図3】 検索に多く用いられる分類語



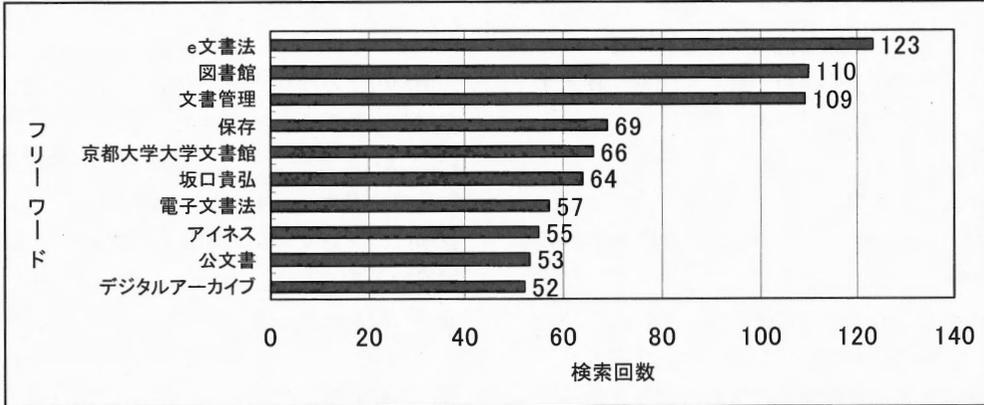
### 6. 3 記事の検索

#### 6. 3. 1 分類語による検索回数

記事に付与されている分類語のうち、閲覧者による検索ではどの語が多く使用されているかを示したのが図3である。「発刊の辞」「文

書管理」「デジタルアーカイブ」が多く検索されており、このような情報を求めてDaily Searchivistを閲覧する読者の多いことが推測される。

【図4】 検索に多く用いられるフリーワード



### 6. 3. 2 分類語以外の語による検索回数

次に、「Yahoo! JAPAN」「Google」「はてな検索」などの検索エンジンでフリーワード(自由語)を入力し、そこでDaily Searchivistを発見した場合を想定した。その際に使用される回数の多かったフリーワードは図4のとおりである。「e文書法」「図書館」「文書管理」がそれぞれ100件をこえている。とりわけ「e文書法」が最も多く検索に用いられていることは、類義語である「電子文書法」の検索回数も含め、2005年4月に施行された同法に対する関心の高さを示している。

## 7. 考察

本稿ではまず、アーカイブズ分野関連情報の共有化を進めるためのツールとして、ブログはその開設、更新、管理がそれぞれ容易であるといった点で有力であることを示した。そのような考え方に基づいて開設されたブログの具体的事例として、Daily Searchivistの設計・運用の概要を述べるとともに、それに対する自己評価も試みた。

以下、前章で行った自己評価をもとにDaily Searchivistの特徴をまとめ、所期の目的を果たすために残されている課題について考察する。

### 7. 1 情報の収集

Daily Searchivistに掲載する情報の収集にあたっては、「はてなアンテナ」や「Google News」のような、新着情報を自動的に通知するシステムを用いている。これによって、情報収集にかかる労力は大きく軽減されている。

情報収集の範囲については図書や雑誌論文の収集は不十分である。特に、文書館が発行する紀要等に掲載される情報についてはほとんどカバーできていないと感じている。内容面については、文書管理やデジタルアーカイブに関する情報を頻繁に収集、掲載しているのは、こういった領域に関する情報が多く流通している状況を反映しているのであろうが、アーキビストの専門性向上というブログの所期の目的を考慮すれば、いわば「伝統的な」アーカイブズに関する情報についてもより積極的な収集をすべきであろう。

### 7. 2 情報の提供

商用ブログサービスを用いることによって、ブログの設計・更新は容易に行うことができている。また、毎日更新を行っていることが、一定のアクセス数を保つことに貢献しているものと思われる。

さらに、文献情報、研究会情報、製品情報、就職情報を1つのブログで提供していること、研究に役立つ情報と実務に役立つ情報を1つ

のブログで提供していること、日本の情報と海外の情報を1つのブログで提供していることによって、多様な情報特性を有するアーカイブズ分野関連情報を一括して閲覧、検索することを可能にしている。

### 7. 3 情報の検索

ブログは日付ごとや内容別の情報の整理が容易である、という特長を生かして、記事への分類語の付与が可能となっている。しかし、ブログの別の特長である、トラックバックにより関連する情報の発見が容易である、という点については、これまでのところ十分にその機能を生かききっているとはいえない。また、記事に閲覧者からのコメントを寄せることができる機能もほとんど利用されていない。読者とのインタラクション（相互交流）を保証するシステムについては再検討の余地があるだろう。

調査結果によれば、「文書管理」「デジタルアーカイブ」「図書館」といったテーマについて知るためにDaily Searchivistにアクセスする閲覧者が多いことが明らかになった。こういった領域はアーカイブズ分野にとってはいわば「周辺分野」とみなされてきた。アーカイブズ分野内部の専門性の向上に寄与するという本来の目的からみれば、これはやや付随的な結果といえるが、アーカイブズ概念や存在意義に対する理解を広げる効果をも生み出しているかもしれない。

### 7. 4 ブログ活用の可能性

Daily Searchivistはもっぱら、アーカイブズ分野に関する文献や新聞記事、研究会などの情報を提供することを目的としたブログである。しかし、すでに述べたようなブログの特長を勘案すれば、アーカイブズ関係者が以下のような活動を行おうとする際にもブログの利用が適当であろうと考えられる。

- 1) 文書館の催事情報やお知らせの発信
- 2) 地域のアーカイブズや歴史・文化に関

する新着情報の発信

### 3) 業務や研究のための備忘録

上記のような活用例は管見の限りではまだ存在しないため、その効果は推定の域を出ない。しかし、アーカイブズ専門職の間の情報・知見の共有や、日本におけるアーカイブズの認知は、ブログの利用によって比較的容易に推進できることは、Daily Searchivist運用の経験から確かであると期待できる。

## 8. おわりに

本稿においてDaily Searchivistの設計および運用のプロセスを詳述したのは、ブログというツールの普及によって、高度な技術や過大な労力を投入せずとも、誰もがこのような情報共有の推進者になれる時代が到来したことを示すためである。アーカイブズ分野関連情報の流通量は今後も急速に増加していくことが予想される。Daily Searchivistがそれらをすべてカバーしようとはもちろん考えていない。アーカイブズの普及と専門性の向上のために、アーカイブズ分野に関する価値ある情報を発信するブログがさらに陸続と登場することを願うものである。

### 〔注〕

- 1 全史料協も1989年に「文書館専門職（アーキビスト）の養成についての提言」をまとめるなど、会の中心的課題の一つとしてこの問題に取り組んできている。
- 2 日本語訳は以下を参照した。小林年春。「アーキビストの倫理綱領」。Archivists in Japan. (オンライン), 入手先<[http://homepage3.nifty.com/archivists/ica\\_moral.html](http://homepage3.nifty.com/archivists/ica_moral.html)>, (参照2005-07-30)。
- 3 坂口貴弘。Daily Searchivist. (オンライン), 入手先<<http://d.hatena.ne.jp/searchivist/>>, (参照2005-06-12)。
- 4 関連する論考として、坂口貴弘。アーカイブの2004年をふりかえる。Academic Resource Guide, no. 203, 2005. (オンライン), 入手先<<http://backno.mag2.com/reader/BackBody?id=200501070040000000005669000>>, (参照

- 2005-06-12). を参照されたい。
- 5 山田哲好; 大藤修. “第七章 歴史研究情報センターとしての史料館・文書館”. 史料の整理と管理. 国文学研究資料館史料館編. 東京, 岩波書店, 1988, p. 185-226.
  - 6 完成間近『文書館文献目録』. アーキビスト. No. 35, 1995, p. 18-19. 伊藤然. 『文書館学文献目録』の刊行. アーキビスト. No. 37, 1996, p. 15. 毛塚万里. もうひとつの“文書館学文献目録”. アーキビスト. No. 40, 1997, p. 12-13. 毛塚万里. 『文書館学文献目録』データの引継. アーキビスト. No. 42, 1997, p. 16.
  - 7 毛塚万里. 情報共有手段としてのCD-ROM出版を考える: 関東部会編『文書館学文献目録』CD-ROM版報告. アーキビスト. No. 53, 2001, p. 1-6.
  - 8 その他, 伊藤然. 史料防災文献目録について. 記録と史料. No. 8, 1997, p. 72-105.
  - 9 “アーカイブズ学を学ぶ人のために——主な入門図書——”. アーカイブズの科学: 上. 国文学研究資料館史料館編. 東京, 柏書房, 2003, p. 442-444.
  - 10 Ando, Masahito; Huiling, Feng; Mamczak-Gadkowska, Irena; Schenkolewski-Kroll, Silvia; Thomassen, Theo H.P.M. eds. What Students in Archival Science Learn: a bibliography for teachers: Second Edition. (online), available from <<http://www.ica-sae.org/bibliography/bibliography.html>>, (accessed 2005-06-12).
  - 11 Society of American Archivists. (online), available from <<http://www.archivists.org/catalog/index.asp>>, (accessed 2005-06-12).
  - 12 ARMA International. “Search Bookstore”. (online), available from <<http://www.arma.org/bookstore/search.cfm>>, (accessed 2005-07-30).
  - 13 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会関東部会編. 文書館学文献目録. 東京, 岩田書院, 1995, 457p.
  - 14 The Education Resources Information Center. (online), available from <<http://www.eric.ed.gov/>>, (accessed 2005-06-12).
  - 15 “会報新企画: Newsすくらっぶ”. 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会編集出版委員会. (オンライン), 入手先 <<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsai2/kanko/news.html>>, (参照2005-06-12).
  - 16 “リンク集”. 独立行政法人国立公文書館. (オンライン), 入手先 <<http://www.archives.go.jp/link/index.html>>, (参照2005-06-12).
  - 17 “機関会員名簿&リンク(2004年9月現在)”. 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会. (オンライン), 入手先 <<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsai2/kikan/index.html>>, (参照2005-06-12).
  - 18 “URLリスト: 公文書館”. デジタルアーカイブ推進協議会. (オンライン), 入手先 <<http://www.jdaa.gr.jp/url/05.html>>, (参照2005-06-12).
  - 19 “文書館”. Yahoo! JAPAN. (オンライン), 入手先 <<http://dir.yahoo.co.jp/Arts/Humanities/History/Archives/>>, (参照2005-06-12).
  - 20 小林年春. “リンク集”. Archivists in Japan: 日本のアーキビスト. (オンライン), 入手先 <<http://www.archivists.com/links.html>>, (参照2005-06-12).
  - 21 “関連団体のリンク”. 記録管理学会. (オンライン), 入手先 <<http://wwwsoc.nii.ac.jp/rmsj/hiroba/link.html>>, (参照2005-06-12).
  - 22 社団法人日本画像情報マネジメント協会. “リンク”. JIIMA Communication Plaza. (オンライン), 入手先 <[http://www.jiima.or.jp/archive/frame03\\_link.html](http://www.jiima.or.jp/archive/frame03_link.html)>, (参照2005-06-12).
  - 23 “文書館とアーキビストに関連のある諸サイトへのリンク”. 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会関東部会. (オンライン), 入手先 <<http://www.edu.gunma-u.ac.jp/~shozawa/zkkanren.html>>, (参照2005-06-12).
  - 24 United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization. UNESCO Archives Portal. (online), available from <[http://portal.unesco.org/ci/en/ev.php-URL\\_ID=5761&URL\\_DO=DO\\_TOPIC&URL\\_SECTION=201.html](http://portal.unesco.org/ci/en/ev.php-URL_ID=5761&URL_DO=DO_TOPIC&URL_SECTION=201.html)>, (accessed 2005-06-12).
  - 25 情報保存研究会. 情報保存研究会ホームページ. (オンライン), 入手先 <<http://www.e-jhk.com/>>, (参照2005-07-30).
  - 26 Solutions Provider Locator. (online), available from <<http://www.aiim.org/solutions-providers.asp>>, (accessed 2005-07-30).
  - 27 ARMA International. “Buyer's Guide”. (online), available from <<http://www.arma.org/buyersguide/index.cfm>>, (accessed 2005-07-30).
  - 28 海野敏. “情報組織化: 識別・代替・構造化”. 図書館情報学の地平: 50のキーワード. 根本彰ほ

- か編. 東京, 日本図書館協会, 2005, p. 58.
- 29 “SDI”. 図書館情報学用語辞典. 日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編. 第2版. 東京, 丸善. 2004, p. 16.
- 30 独立行政法人科学技術振興機構. “SDI (最新情報提供) サービス”. (オンライン), 入手先 <<http://pr.jst.go.jp/search/search.html>>, (参照2005-07-30).
- 31 アスキー. “blog”. アスキーデジタル用語辞典. (オンライン), 入手先 <<http://yougo.ascii24.com/gh/84/008478.html>>, (参照2005-06-12).
- 32 山下清美; 三浦麻子. 「はてな」利用者に対するウェブ日記・ブログ意識調査. (オンライン), 入手先 <[http://www.team1mile.com/asarin/research/04survey/freq\\_top.html](http://www.team1mile.com/asarin/research/04survey/freq_top.html)>, (参照2005-07-30).
- 33 2005年3月末で日本のブログ人口は335万人に達しているという。ブログ資本主義: 世代ワープが始まった. 週刊東洋経済. No. 5971, 2005, p. 28.
- 34 このようなページは「アーカイブ」と呼ばれることが多い。
- 35 5分で分かるブログ知識12選. 週刊東洋経済. No. 5971, 2005, p. 31.
- 36 egamiblink. “図書館系Web日記・Blog”. Blink. (オンライン), 入手先 <<http://www.blink.jp/go?page=ShowShare&args=2&arg0=view&arg1=36595966>>, (参照2005-06-12). にその一覧がある。
- 37 三根慎二. Liblog JAPAN | Blog on Library and Information Science. (オンライン), 入手先 <<http://mwr.mediacom.keio.ac.jp/%7Emine99/blogs/>>, (参照2005-06-12).
- 38 末廣恒夫. Copy & Copyright Diary. (オンライン), 入手先 <<http://d.hatena.ne.jp/copyright/>>, (参照2005-07-30).
- 39 岡本真. ACADEMIC RESOURCE GUIDEの作業メモ. (オンライン), 入手先 <<http://d.hatena.ne.jp/arg/>>, (参照2005-07-30).
- 40 発刊の辞に記した。坂口貴弘. “発刊の辞”. Daily Searchivist. (オンライン), 入手先 <<http://d.hatena.ne.jp/searchivist/20040717>>, (参照2005-06-12).
- 41 坂口貴弘. “プロフィール”. Daily Searchivist. (オンライン), 入手先 <<http://d.hatena.ne.jp/searchivist/about>>, (参照2005-06-12).
- 42 はてな. はてなダイアリー. (オンライン), 入手先 <<http://d.hatena.ne.jp/>>, (参照2005-06-12).
- 43 2004年5月13日現在で46,000人が登録していた。
- ブログ利用者激増中: アクセス数も350万人を突破!! . 週刊アスキー別冊. Vol. 16, 2004, p. 7.
- 44 はてな. はてなアンテナ. (オンライン), 入手先 <<http://a.hatena.ne.jp/>>, (参照2005-06-12).
- 45 Google. Google News日本版BETA. (オンライン), 入手先 <<http://news.google.co.jp/>>, (参照2005-06-12).
- 46 社団法人日本書籍出版協会が月2回発行する、近刊書籍の目録。
- 47 紀伊国屋書店. 紀伊国屋書店BookWeb. (オンライン), 入手先 <<https://bookweb.kinokuniya.co.jp/>>, (参照2005-06-12).
- 48 2005年7月25日までに付与されている分類語。説明を省略した語もある。
- 49 独立行政法人科学技術振興機構. “科学技術情報流通技術基準: 参照文献の書き方”. 科学技術情報流通技術基準ハンドブック2003年版. (オンライン), 入手先 <<http://www.jst.go.jp/SIST/handbook/sist02/ndex.htm>>, (参照2005-06-12).
- 50 日本科学技術情報センター技術開発部. 科学技術情報流通技術基準 (SIST) と学協会誌の現状について: SIST 02, 07, 08の普及状況調査報告. 情報管理. Vol. 36, No. 6, 1993, p. 507-520.
- 51 掲載したURLは2005年6月12日参照。